



令和6年度は、こどもみらい館開館25周年です。共同機構をはじめとする様々な所属の皆さんが、共に学び、交流できるこどもみらい館ならではの強みに加え、新たにリモートなども使いながら、よりたくさんの方に届くような研修を計画をしています。お楽しみに！

ANNIVERSARY
こどもみらい館

25周年



～実技～

音楽リズム

～動画配信～

幼保小の架け橋
プログラム

やってみよう！
読み聞かせ

子どもの困り
への理解

心を育てる

LDの可能性のある
子どもへの就学前
の関わり

～集合研修～

子育てサポートプログラム
みんなはなまる

～リモート研修～

非認知スキル
の心理学

～グループ討議～

困りを読み解き
支援を考える

保幼小連携・接続

～往還型の研修～

フィールド研修



往還型の研修 ～保育環境のアイデアを学び合おう～

講師 古賀 松香 京都教育大学教授

3年目に入った往還型の研修は、保育園(所)・幼稚園・認定こども園、私立・国立・公立の垣根を越えてのグループ討議や古賀松香先生の講義が好評です。今回は残念ながら、集合研修がかなわず、動画配信によって講義を聞き、それぞれの課題については、レポートでアドバイスをし合う形になりました。

①園内研修で、課題を明確に

②事前レポートで、それぞれの園の課題を共有

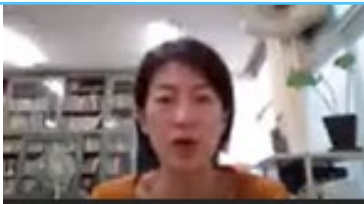
③グループごとに、他園へアドバイスを

④古賀先生の講義(動画配信)

⑤講義やアドバイスを元に園内研修。事後レポート作成

⑥研修を実践に活かす

事前レポートを踏まえた講義



やりたいことが見える環境になっているか

もっとやりたいことが見える環境になっているか

今日、一人一人が、十分に遊べていたかを常に問う 専門性が必要

発達的にふさわしい遊びか を一步踏み込んで考えたい

保育者が経験してほしいと願う遊び…

でも 押しつけにならず、子どもが主体的に遊びたいと思うには…

教材研究の重要性

変わらない環境=安定した環境 であるが、 遊びが停滞しつまらない環境ともなり得る

発達を読み取りながら、少しずつ変化・工夫を加え、保育環境の充実を！



今日子どもがどの環境とどのように関わっていたか、具体的な姿を捉えることから始めるしかありません。保育者が、それを探求し日々の努力を積み重ねることが、子どもが充実して遊ぶ姿に現れるのです。

保育とは、日々変わっていく子どもと共に変えていくものです。保育者も挑戦的に試しながら考えていく存在であってほしいと期待しています。

往還型の研修 参加園

- ・あすか保育園
- ・なかとみこども園
- ・伏見いろどり保育園
- ・南殿幼稚園
- ・西院ルンビニ保育園
- ・ひかり保育所
- ・翔鸞幼稚園
- ・伏見住吉幼稚園
- ・葉室幼稚園
- ・朱い実保育園
- ・深草幼稚園
- ・上賀茂幼稚園
- ・伏見住吉幼稚園
- ・楽只保育所
- ・牛ヶ瀬保育園
- ・乾隆幼稚園
- ・辰巳保育所
- ・壬生保育所
- ・中京もえぎ幼稚園

ご参加ありがとうございました

<受講者のレポートより>



常に、ひとりひとりが十分に遊ぶことが出来たか問う事、発達的に遊びがふさわしいかを考える事の大切さ、環境がいかに大事かなどが、改めて分かりました。また、他の園の環境構成を知ることが出来たので、良かったです。

子どもの姿をしっかりとらえ、今の子どもたちは何に興味を持っているか、どのような関わりやあそびの提供をすれば、あそびが発展するのかを、子どもの姿を観察しながら取り入れていくことが大切だと思いました。また、教材研究が大切という話を聞き、どのようなものを使うのが良いか、状況に合わせてどのように使うかなど、職員同士で共有していきたいです。



いろいろな園の保育室の様子を写真付きで見ることができ、勉強になりました。

各園さまざまな工夫や課題があることを知り、そして試行錯誤しながら保育されていることを改めて感じ、励みになりました。他園の先生方にも、環境についてアドバイスを頂き、参考にしながら日々の保育の中で活かしていきたいと思います。



年度初めに年齢に応じた室内環境を予め整えておくことはもちろんのこと、子どもの発達など遊びの姿を踏まえて臨機応変に遊びの環境を整えていく、また、子どもの遊びの要求を常にキャッチできる感性を持ち合わせていなければならないと思いました。子どもが自ら手を伸ばし遊んでみたいと思う環境作りを意識し、環境を改善することが日々必要だ、と感じました。



日々、遊びをどのように広げていくべきなのか悩むことが多かったが、今回の講義で子どもが楽しんでいたことを見取り、遊びを少しずつ変化をさせて工夫を加えていくという話があり、子どものつづやっていたことを実現できるように日々遊びを変化させていくことの大切さを感じました。明日の保育の見通しをもち切れていないこともあるので、自分を見つめなおしていきたいと思いました。



今回の研修が、それぞれの園での保育に活かされていくことを願っています。長い期間にわたっての研修となりましたが、意欲的に研修に取り組んでいただいた受講者の皆様には、頭の下がる思いです。ありがとうございました。



心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続

平成16年度から推進してきた、こどもみらい館の研究事業。令和4年度からは「心の育ちをつなぐ保幼小連携・接続」をテーマに、第6期研究プロジェクトに取り組んでいます。

令和5年度は、大將軍小学校、たかつかさ保育園で授業参観や保育見学の後、心の育ちについて保幼小の先生方が共に語り合い、子どもを真ん中にした関係づくりに取り組みました。後半は、様々な小学校へ出向き、研究プロジェクトの意義や取組内容についてお伝えしてきました。

令和6年度も、引き続き「子どもを真ん中にして、大人同士が語り合いつながりたい」「子どもの心に目を向け、その育ちを肯定的に捉えたい」という願いを持ち、保幼小連携・接続の取組を進めます。

お近くで研究プロジェクトの取組がスタートしましたら、ぜひ積極的に御参加ください。

来年度も引き続き
取組を進めます

京都市総合教育センター「幼小接続講座」②

昨年度まで、京都市立小学校と京都市立幼稚園向けに行われていた「幼小接続講座」ですが、今年度は総合教育センターとこどもみらい館が連携し、保育園（所）・私立幼稚園・認定こども園に対象を広げました。第2回は、架け橋プログラムに実際に取り組む京都市立中京もえぎ幼稚園の5歳児の担任の先生の実践発表を聞き、その後、少人数で小学校の先生と一緒にグループ協議をしました。参加された先生方の御感想です。



幼保と小学校の壁をなくしスムーズに接続を進めていくためには、お互い当たり前と思っていた環境の違いを知ることや話すことが大切だとわかった。

子どもの興味や意欲を引き出し、さらに広げていく環境設定や関わりを具体的に学ぶことが出来ました。今後、保育に活かしたいです。また、小学校の先生、保育士の方々とグループ協議を経て、“小学校へのスムーズな移行”の姿を考えることができました。子どもの姿を小学校の先生と一緒に振り返ることが学びになりました。



動画配信

今こそ聞きたい！「非認知能力」を育む乳幼児・小学生の子育て講座 「どうする？子どもの『はじめての100か月』～未来を創造的に生きる子どもを育むには～」

1月20日に京都教育大学教授 古賀松香先生に御講演いただきました。参加者のアンケートからは、「もっと早く聞きたかった」「非認知能力は大切なものだと知った」等のご感想を頂きました。

就学前施設の大切さや小学校にどうつながっていくか等についての学びもあると思いますので、ぜひ御覧ください。

【前半】<https://youtu.be/ejoNTrVmc9o>

【後半】https://youtu.be/6OC_OxfTLdQ

【前半】



<QRコード>

【後半】



※ 2階ロビーに設置しておりました研究研修資料閲覧は、今年度をもって終了いたします。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都市はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！



発行日 令和6年3月21日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>